



VOL.18 No.2 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1985. 6. 1

大学の国際化について

比嘉良充

久し振りにセスナ機に乗る機会があったので琉球大学の移転統合整備計画が名実共に完了したところを上空から展望した。「今や入れ物はできた。これからは中身の勝負だ」というのが実感であった。

「中身」にもいろいろあろうが、本学の置かれた地理的、自然的、文化的、歴史的な条件を生かしながら、特色ある大学づくりを構想するとき、本学の「中身」の一つに大学の国際化が考えられる。

戦後40年を経た今日、我が国は、産業構造の変化、高度科学技術化社会、情報化社会、価値の多様化社会、成熟化社会、高学歴社会、高齢化社会などが急激に進むとともに、それらの変化と関連して、同時に、各分野における国際化のすう勢から高等教育の国際

目 次

大学の国際化について……比嘉 良充 …… 1	南からの手紙 - 東京大学文献情報 センター研修記 - …… 本郷清次郎 …… 9
「図書館に寄せる抒情(三) - 神智学的 図書館メディテーション」… 瀬戸 郁子 …… 3	木崎甲子郎前図書館長本館へ 図書を寄贈 …… 10
学術情報とネットワーク… 前田 正三 …… 5	本学教官寄贈図書コーナー …… 11
九州地区国立大学図書館協議会 総会(第15回) …… 7	お知らせ …… 12
図書資料(大型コレクション) の利用案内 …… 8	投書箱より …… 13
	図書館事情 …… 13

化も重要な課題となっている。本学においても「国際交流」をはじめ、「学術国際交流」とか、「留学生交流」とか、21世紀を想定した決まり文句を聞く頻度が増えてきた。

事実、本学において外国人留学生の交流は年々盛んになり、今年外国人留学生総数は51人と聞いている。ちなみに、1983年に我が国が受入れた外国人留学生総数は10,428人で約100か国から来ている。しかし、この数はアメリカが受入れている外国人留学生の311,822人、フランスの119,336人、イギリスの52,899人、西ドイツの57,421人に比べると極めて少ない。我が国は、こと外国人留学生の受入れに関する限り、一種の砂漠状態にあるといっても過言ではない。

このような現状を踏まえて、我が国は、21世紀初頭には10万人の外国人留学生受入れをめざして、受入れ態勢の整備、外国人留学生宿舍の確保等関連施策を総合的に推進するようである。10万人という外国人留学生数は、我が国の高等教育人口が現在程度の規模とすれば、日本人学生数に対する外国人留学生数の割合が5%程度となる。将来、もし、我々とは民族を異にし、異った環境で教育を受け、発想の仕方が違った外国人留学生が5%に増えると、かれらが本学教官と学生に与えるインパクトは決して少なくない。このように外国人留学生の存在とインパクトを意識するようになったとき、本大学の国際化が現実のものとして始まったのである。

次に、大学の国際化は本学にもっと多くの外国人を正規の教授陣に迎えることにより可能となる。

去る、5月1日、学長主催による本学外国人研究者と関係教職員の懇談会が催された。アメリカ、台湾、ドイツ、フランスから8人の外国人研究者が招待されて、我々との相互理解と親睦を深める良い機会であった。懇談会で特に注目されたのは、本学最初のフルブライト客員教授として米国・ニューメキシコ州立大学より来日されたモンロー・ピリングトン博士と夫人であった。全国の国立大学でフルブライト客員教授を受入れている大学は東大、京大、東北大、北大、大阪大、広大、九大、それに琉大である。ピリングトン教授は本学に10ヶ月間滞在し、その間、教養部提供科目の「地域の科学Ⅱ」と教育学部・法文学部共同提供科目の「英米の風物」を講義することになっている。勿論、講義はすべて英語で行われているが、学生の理解力もピリングトン教授が心配していたよりはるかに良いようであり、又、学生間での講義の評価もなかなか好評である。

昨年までは、我が国の国立大学は外国人を正規の教授陣に迎えることは、法の定めるところにより不可能であった。そのため、大学では、外国語教師を除いたすべての授業を、日本人教授陣が担当していたのである。海外の大学ではこのようなことはありえない。諸外国では、以前から、外国の著名な教授（勿論、日本人も含む）が正規の教授と

して迎えられてきた。

本学がもっと多くの外国人を正規の教授として迎えることが大学の国際化への大きな第一歩を踏み出すことになる。それと同時に、このような学術交流を通じて、我が国の高等教育、さらに学術研究の活性化が図られることが期待される。

最後に、なぜ大学の国際化が必要なのか。現代は、いかなる国、人間共同体も他の国々、他の共同体に依存しないで、それぞれ自身で存立することはできない。食糧、資源、公害等の問題はもとより、一国の安全すら自国だけでは保障できず、他の国々と友好的な関係の中で、平和に共存しなければならない。自国の強大な武力、経済力を背景に、自国のイデオロギーや政治体制を世界の国々に押しつけようとする時代はすでに過ぎ去った。

今の時代に生きる我々は、自分の育った文化にのみ価値をおき、他の文化を認めようとしないうような人間ではなく、他の国の文化、生活習慣等をよく学び、その人間を理解し、その理解を通じて自己自身との相対性を自覚するような柔軟にして、開かれた人間でなくてはならない。そして、究極的には世界中が人類にとってより住みやすい場所となるように自分なりに努力する時がきている。このような目的意識を持った人材を育成する最も理想的な場が、大学にあると確信しているので大学の国際化の必要性を強調するのである。

(ひが よしみつ：短期大学部教授 倫理学)

「図書館に寄せる抒情(三)

— 神智学的図書館メディテーション —

瀬戸郁子

「危機に立つ国家」(教育の優秀性に関する全国審議会・NCEE)は、米国版臨教審答申だった。当初、全米音楽教育者会議(MENC)の会長は、NCEE自体が芸術教育を保証しているにもかかわらず、ジャーナリズムはそれを全く無視した報道をしたと非難したが、果して真実はその通りだったのかどうも疑わしい。「危機」を一読しただけでも、新基礎教科の設定や大学入学許可基準のひき上げが前面に出て、やはり芸術科目、なかでも音楽は論議の外に追いやられてしまっている印象をうける。ワシントン・ポストやAP通信等の批評が意図的に反芸術教育の報道をしたとは断言しにくいのである。つまるところ、マン・パワー政策、教育が雇用機会に確実に結びつくためにはどんなことを学校で学んでおくべきかということになると、どうしても芸術教育は軽んぜられることになってしまう。実に背中が寒くなるのを覚える。たとえどれほど平等主義を唱え

ようとも、それは差別アレルギー打破からきた外的なものでしかなく、本音的には優秀性の短期養成を目指しているのもであって、子ども達が卒業必修要件のひき上げで、ぐいぐい絞めあげられていくのが目に見えるようだ。広島大学大学教育センターの大学研究ノートの報告をみると、特に社会人文系での日本研究が爆発的に量的増大している。全体的にこの改革の波をながめると、日本との経済戦争の渦のなかで、教育においてこそ日本に倣い、追いつこうとする米国の一種のあせりを隠しきれないでいる。これを我々の側からすれば、今度の改革も60年のと同様に、結局アメリカからの逆輸入でしかないのではないか。わが国の教育のアイデンティティーは一体どこにあるというのだろうか。

それに比べるとシュタイナー学校はどうだ。まさに悠久として変わらない。例えば、教育内容においても、何年もの間、同じフォルムを色とりどりに書いたり、踊ったりの繰り返しばかり。臨教審やNCEEに言わせれば、“あれは自閉症児をせせとつくっているようなものだ”とはねのけるかもしれない。しかしこの反復のうちに、子ども達はメディテーション：一つのこと意識を集中させる習慣をどんどん身につけていく。これは臨教審こそが学ぶべき態度であって、不幸なことに今の大学生達にも欠落している態度なのだ。アカデミックなものであろうと、実利主義的なものであろうと、何の目的意識や問題意識も持たないままに大学へ入ってくる。これは自づと大学生活のあり方を左右する。例えば、一つのことをラディカルに問いつづけ、追究しようとするをほとんどしない。その解決の方法論はいくつかあるだろうが、100人の学生(2・3年次)に調べると、図書館の参考調査係を利用した経験のあるものは、わずかに3人で、そんなものがあることさえ知らない学生が86人もいた。図書館業務の活用の仕方までガイドンセねばならないのだろうか。過保護か、ころばぬさきの杖か。では、図書館側に改めるべきはないか。図書館機械化における計算機可読型目録が一旦出来ると印刷体目録の管理運用が非常にやり易くなる。ファイルをオンライン方式で用いると利用価値は更に高まり、例えば、限られた項目についてのみではなく任意の項目についても書物を探すことができ、またいくつかの項目を重ねて探すことも可能になる。これらの機能の便宜からすると、ある図書が発注であるかどうかの情報、新着書の状況などという書誌情報と蔵書管理情報のデータベースをもっともっと利用者にアピールしなければならないだろう。オンラインシステムが成功するか否かは、いつに関連する諸データをうまく集中管理できるかどうかにかかっているのだ。

自分の魂がいま、本当に求めているものは何か。神智学ではエーテル(生命の無意識界)体験が未来の自己創造を可能にすると考える。自我をエーテル界へ解き放つのは、

集中・メディテーションの行によって実現される。シュタイナー学校のエポック授業で、子ども達は集中によるエーテル界のファンタジーコントロールを繰り返し繰り返し練習しているのである。しかし、これは何もひとりシュタイナーだけのものではない。もっと身近で、優しい例をあげれば、宮沢賢治の童話でかわされるマグノリアの言葉にも出てくるし、梶井基次郎の「Kの昇天」の中で導かれる月の光もすべてエーテル界への透いにほかならない。

人は深く沈黙した世界から音がやってくるのを知っている。アメリカの作曲家ブライアン・イーノは創作の時、メディテーションの行をする。聴覚を鋭くするには「環境音楽」が特に効果的だ。日没から朝まで、夜の森の中で、自然をすべてまきこんだ太陽神ラーの秘儀を公開したのは、カナダのマリー・シェイファーという作曲家。彼は、現代人は音によって音が聴こえなくなってしまうと言っている、彼の音楽感に古代エジプトの色が濃い。

音楽や象徴哲学、自然科学や天文学にしても、すべて人間の調和した運命を直視することから始まると言える。宇宙の真の秩序を見たいなら森へ行けばいい。直観的思考や集中力を育てるのは森林なのだろう。森の中で私達はただ立っていさえすればいい。簡単なことだ。静寂が音をひびかせ、緑のにおいががさがさしたものを取り去ってくれる。だからこの静なる（聖なる）森－思考の案内人としての図書館に対して次々とヴィジョンが広がっていくのは純粹で自然なことなのではないだろうか。

（せと いくこ：教育学部助手 音楽科教育）

学術情報とネットワーク

前田正三

我が国の大学図書館にとって、昭和60年(1985)は、図書館史の一つの節目として画期的な活動がスタートしました。それは、全国の共同利用施設である東京大学の文献情報センターを中心とした異機種間におけるコンピューターネットワークの業務が開始されたことです。

具体的には、東工大図書館(日立)が昨年(1984)の12月に、今年に入ってから大阪大図書館(日電)、名古屋大・京都大図書館(富士通)とそれぞれ試験運用に入ったことを文献情報センターニュースが伝えています。

このことは、文献情報センターのデータベースを活用して5大学の共同・分担目録方式による本格的稼働として世界ではじめての成果が期待されます。

一方、本学でも計算センターを中心とした総合システムの中で、図書館の閲覧管理サブシステムが、昭和57年10月から稼動し、順次、雑誌管理・図書管理・情報検索の業務電算化が計画されています。そこで当面の検討すべき課題としては、

- ① 学内の学術情報ネットワークと文献情報センターとの接続についてどのように図書館業務との関連づけを行なうかということ。(ソフト)
- ② 文献情報センターにおける目録情報の基準と整合性をもった、本学図書館業務との関連。(入力・出力)
- ③ 琉大における学術情報データベース構築の方策。(書誌・所在・主題)
- ④ 各主題分野の情報検索サービスについては現行の外部のデータベースを当分の間利用していくかどうか。

など、現在、文献情報センターが進めている学術情報システムへの対応と、通信料金を含めた経済的効果、つまり、図書館業務の省力化、迅速化、情報サービスの拡充などネットワークにおける運用上の諸問題を今後も継続して取り組んでいく必要があります。

そこで、当館としては、文献情報センターとの間においてデータのとり込みや、データの転送に必須のデータ項目について検討がなされています。例えば、図書館業務電算化で図書や雑誌の「受入管理業務」、「目録業務」、「検索・問い合わせ業務」など各業務間相互の関連づけをもった作業分析が行なわれています。

当面は、今年度に完成する予定の学術雑誌総合目録～和文編～、全国版データベースからの琉大個別版による書誌・所蔵ファイルの構築、さらに、今年に予定されている欧文編全国調査とも関連した所蔵調査が進められることとなります。

現在は、よく情報化社会とか、情報公害とか、情報の氾濫が云々されます。たしかに、年間に出版され、そして流通する学術文献は、全世界で400万件とも500万件とも云われ、これらのオリジナルの一次情報を体系的に集約した主題別二次情報データベースの数も全世界で500種にも及ぶという情報量です。このような、ぼう大な情報群の中から財源的にも限られた予算の範囲内で、適切な資料を収集し、整理し、運用し、保存する大学図書館の使命も益々重要なものとなっていることも事実です。

当館は、「南に開かれた大学」の図書館としてアジア太平洋資料・アメリカ研究資料・国連関係資料などの国際的にも特色のあるコレクションや、全国でも有名な沖縄関係資料のコレクションが今後とも整備充実され、学術情報資源共有の理念のもとで大学間相互協力のネットワークによって学術研究の進展に大きく寄与することを希うもの一人であり、今後も努力を重ねていきますので、関係各位のご援助をお願いいたします。

(まえだ しょうぞう：附属図書館事務部長)

九州地区国立大学図書館協議会総会（第15回）

昭和60年4月23日（火） 於 宮崎市

本総会は宮崎医科大学を当審館として、新規加入の鹿屋体育大学を含めた九州地区の国立大学15大学から38名が参加して開催された。

協議題は次のとおりである。

1. 国立大学図書館間相互利用実施要項と相互貸借の諸問題について
2. 九州地区国立大学図書館間における相互貸借について
3. 開かれた高等教育機関における図書館の今後の対応について
4. 学術情報システムに対応する大学図書館職員の研修について
5. 学生用図書費の充実について
6. 外国雑誌契約価格について
7. 昭和59年度九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議について

協議の結果、①学生用図書費の充実について、②国立大学図書館間の図書の相互貸借について、③学術情報システムに対応する大学図書館職員の研修について、以上の3件を第32回国立大学図書館協議会総会（6月13日～14日、名古屋大学で開催）の協議題として九州地区から提案することになった。このうち②の「国立大学図書館間の図書の相互貸借について」は、事務手続の簡素化と相互貸借業務の迅速化を図るため、九州地区国立大学図書館間の相互貸借の申込には、統一様式として往復ハガキを使用することに決ったが、九州地区に限らず全国規模においても共通して利用できる様式を検討するため国立大学図書館協議会総会に提案することになった。

なお、本館における過去2年間の相互貸借の状況は次のとおりである。

（単位：冊）

年度	九州地区		九州地区外		小 計		合 計
	借 用	貸 出	借 用	貸 出	借 用	貸 出	
58	3	—	51	—	54	—	54
59	10	—	91	5	101	5	106

（尾崎 一雄：整理課長）

図書資料(大型コレクション)の利用案内 (昭和57～59年度)

大型コレクションは、各国立大学が文部省に設置を申請して、全国共同利用の目的で購入された資料であります。教官各位が広く御活用下さるよう御案内致します。なお御利用に際しては、参考調査係(内線2143)におたずね下さい。また大型コレクションの設置が開始された昭和53年から同58年度までの各大学の受入目録については、“びぶりお”16巻3号('83, 9)及び17巻2号('84, 6)を御覧下さい。参考調査係カウンターには「全国国立大学大型コレクション所蔵案内」昭和53年度～もおいてありますのであわせて御利用下さい。

また本館は、昭和57年度に“Civil Liberties in American History”(アメリカ公民権斗争の歴史)No.1～116 計137冊が設置され、昭和58年度には“Bulletin of U.S. Bureau of Education”(アメリカ連邦教育局公報)1906～1959 計217冊が、さらに昭和59年度にはマイクロフィルムで“Hawaii Times”(ハワイタイムス 注:1935～1952年6月までの紙名はNippu Jiji)1935～1969が購入されましたので御利用下さい。

次は、昭和59年度に設置受入れ利用案内のありましたものであります。

〔昭和57年度〕

設置大学名	資 料 名
お茶の水女子	Collections on History of Women (女性史コレクション) 計480冊

〔昭和58年度〕

北 海 道	Collection of Russian Emigre Fiction (ロシア亡命文学コレクション) 計636冊
北海道教育 岩 手 東 京 学 芸	「英国教育史」関係コレクション 計427冊 明治年間、大正・昭和年間 府県統計書集成 (マイクロフィルム版) ヘボンその他外国人編纂による日本語・東洋語辞書集成 (目録は同大学増加図書目録No.11に収録)
横 浜 国 立 広 島	Mirabeau Collection (ミラボー伯著作・資料集) Dissertations on Science of Education in Germany, 1945～1980 (ドイツ教育科学学位論文集 1945～1980)

〔昭和59年度〕

東京芸術 ルネサンス寓意図像稀覯本コレクション (The John Landwehr Collection of Emblem Books) 計42冊

琉球大学 Hawaii Times (ハワイトイムス) 1935年10月～1969年4月 マイクロフィルム版

※ 1942年12月にハワイトイムスに紙名変更されたがその前の紙名は
日布時事

(参考調査係)

南からの手紙 ー東京大学文献情報センター研修記ー

お元気ですか、その後？ 上京の際にはありがとうございました。早いもので、あれからもう三ヶ月がたっています。せっかくお会いしながら研修のことについては余りお話しする暇もありませんでしたので、遅ればせながらここで簡単に報告しましょう。

研修は10月29日から3月5日まで、年末年始の中断をはさんで15週間続きました。正式名称は「東京大学文献情報センターセミナー」です。お分りのように学術情報システムに関連しての研修です。

セミナーは講義と演習からなっており、演習の中には更にOJTや見学なども含まれます。このセミナーの前身の情報図書館学セミナーの頃には、自由研修の時間がかなりあったと聞いています。しかし、現在の名称になってからはOJTなどが増えて、その分、自由研修の時間は減ったようです。更に日々の業務報告というものをワープロで作成せねばならず、時間外を含めほとんどの時間はそれに使うことになってしまったので、私に関しては自由研修の時間というものは殆どとれませんでした。

研修の内容は先に述べたような研修目的に沿ったものですから、図書館機械化とか電算機による図書館ネットワーク、あるいは電算機による情報検索等々、コンピュータがらみのもの、それもプログラミングとかシステム設計とかの即実戦的なものではなく、その基礎となる概論、入門論といったようなものが主でした。様々な専門用語との遭遇がありました。種々のハードウェアの機種名が出てきました。私はそれまでそういったことに余り関心がなかったのですが、その辺りを把握することの大切さを認識させられました。異機種のコンピュータどうしを接続することが、いかにむずかしいことかも良くわかりました。OPACとかBUとかトピカルなことについての具体的イメージも掴めました。

見学では機械化のすすんでいるいくつかの図書館、東工大やULIS、国会図書館、JICSTなどに行きました。実際に現場で体験できたこと、加えて多くの方々とお会い出来たことは貴重な経験でした。話を伺っていて、電算化にあたっては特に事前の検討に時間をかけることの重要性を再認識しました。

自由研修の総括として、終了レポートというものがありました。最初はオプションだということだったのですが、結局、全員出すことになりました。先ほども書いたように、夜や週末をも含めて、ほとんどの時間は業務報告作成にとられたので、最後の一・二週間で必死に捏ね上げました。大変でした。

研修の資料の整理もままならず、日常業務に流されていますが、そうこうするうちに事態はまた新たな方向に進みつつあります。それはまたこの次にお会いする時にでも。

では、また。

(本郷 清次郎：整理係)

木崎甲子郎前図書館長本館へ図書を寄贈

現在理学部長であり、また前図書館長でありました木崎甲子郎教授が専門書107冊(和書36冊、洋書51冊、パンフレット20冊)を本館に寄贈されました。

これら寄贈された資料の中には、今日ではなかなか手に入れることのできないもの、例えば“日本鑛業発達史上・中・下”(鑛山懇話会 1932)を始め、“本邦鑛物圖誌1～4”(大地書院 1937～1941)があり、また、戦前の満洲、支那、朝鮮、ビルマなどに関する鑛物資源の文献も含まれております。

さらに洋書の中には、今世紀始めの文献、Principles of Mining (Hoover, H.C. 1st ed. 1909)もあり、今では求めることのできない貴重な資料であります。

図書館では、できるだけ早めに整理し、利用に供したいと思っております。

なお、木崎教授は、昭和58年6月にも63冊の専門書を寄贈されました。以上のような、貴重な専門書を御寄贈していただき、大変ありがとうございました。

本学教官寄贈図書コーナー

今回は昭和60年3月1日から昭和60年5月30日までご寄贈いただきました分を掲載致します。(敬称略)

貴重な図書を御寄贈下さりまして、ありがとうございました。今後とも御協力の程お願い申し上げます。

- 加藤 祐三(地 殻 学) 「奄美・沖縄岩石鉱物図鑑」 新星図書 1985.
- 藤原 幸男(教 育 学) 「小学1・2年集団づくりのための学級経営案」 明治図書 1983.
「教材文化と学習集団の指導」 明治図書 1983.
「子どもの見方・とらえ方」 明治図書 1985.
- 杉浦 正輝(保健技術学) 「新しい学校保健」 建帛社 1985.
- 石川 友紀(地 誌 学) 「比較アジア移民学の課題と方法」 名古屋大学 1985.
- 國府田佳弘(農産施設工学) 「熱帯・亜熱帯の未利用植物資源の多目的高度利用システムに関する研究報告書」 地域産業技術振興協会 1984.
「高速荷重を受けるロータリー耕耘爪の動的挙動について」 農業機械学会 1966.
- 江上 能義(行政学及び政治思想史) 「沖縄の自立と展望」 琉大法文江上ゼミナール 1985.
- 翁長 謙良(農 地 工 学) 「赤土流出機構調査結果 昭和56年度」 沖縄県環境保健部 1983.
- 吉永 安俊(利 水 工 学)
- 吉野 哲夫(サンゴ礁学) 「The Fishes of the Japanese Archipelago」 Tokai Univ. 1984.
- 菊山 正明(社会科教育) 「置県前後における沖縄統治機構の創設」 早稲田法学 60(3)より抜刷 早稲田 1985.
- 大城 常夫(経 済 政 策) 「地域発展と組織化」 ひるぎ社 1985.
- 比嘉 政夫(文化人類学) 「The Dragon Boat Festival in Hongkong」 上智大学 1985.
- 真壁 朝敏(機械力学及び機械要素設計) 「70/30 黄銅の低サイクル疲労破壊と延性破壊に関する研究」 九大 1985. 学位論文

- | | |
|--|--|
| Monroe, (英文学
Billington フルブライト
交換教授) | 「The Political in the Twentieth Century」
Charles Scribner's 1975. |
| 古謝 瑞幸 (家畜管理学) | 「沖縄畜産 No.18, No.19」 沖縄畜産研究会 1983,
1984. |
| 上原 方成 (土質工学及び
衛生工学) | 「建築設計監理業務の需要開拓に関する調査研究」
沖縄県建築設計監理協同組合 1985. |
| 新垣博子先生定年退官記念
事業会 | 「新垣博子先生定年退官記念誌 家庭科教育とともに」
新垣博子先生定年退官記念事業会 1985. |
| 安次富長昭 (構 成) | 「教育美術5」 教育美術振興会 1985. |
| 幸喜 善福 (森林保護学・
森林工学) | 「飛塩について」 沖縄総合事務局 1984.
「沖縄本島南部における防災林造成の方法について」
沖縄総合事務局 1985. |
| 池宮 正治 (中国文学及び
琉球文学) | 「台湾林業 第10巻10期」 台湾省政府農林庁
「地域と文化 第29・30合併号」 ひるぎ社 1985. |
| 平良 一彦 (保健管理学
講座) | 「卒業研究小論文集 No.12」 琉球大学医学部保健学科
1984. |
| 小島 瓊禮 (国 文 学) | 「イザイホー調査報告」 沖縄県教育庁文化課 1979. |
| 上里 健次 (園 芸 学) | 「創立20周年記念誌」 沖縄県蘭協会 1981. |

〔お知らせ〕

夏期休暇中の図書館利用について

1. 開館時間

月～金 8:30～17:00

土 8:30～12:30

(日曜, 祭日は閉館)

2. 長期貸出

期 間 : 6月20日(木)～9月12日(木)

冊 数

資料区分		身 分						
		1	2	3	4	5	6	
		学部学生	院 生	専攻科生	研 究 生	聴 講 生	委 託 生 そ の 他	
0	共 用 図 書	冊数	7	15	7	10	7	7
1	指定図書一般	冊数	2	2	2	2	2	2
2	指定図書専門	冊数	1	1	1	1	1	1
3	沖縄開架図書	冊数	2	2	2	2	2	2
4	アメリカ研究	冊数	2	5	2	5	2	2
合計貸出・可能冊数			14	25	14	20	14	14

(閲覧係)

投 書 箱 よ り

今回は、2月から4月までの投書についてお答えします。

※ 図書館利用について、オリエンテーションの時にまとめて指導してほしい。

図書館利用に関する新入生オリエンテーションについては、首里キャンパス時代の昭和39年以来今日まで毎年実施してきており、また、3・4年生を対象にした文献検索の方法については昭和45年頃から教官の希望によりその都度教室でも実施していましたが、千原に移転してからは本館内で実施しております。

もしおたずねしたいことがあったり、或いは疑問の点がありましたらどうぞ御遠慮なく参考調査係にお聞き下さい。

図 書 館 事 情

部 課 制 の 発 足

図書館では、昭和57年以来部課制の設置を文部省に申請してきましたが、関係者の御尽力により、設置が認められ、昭和60年4月1日をもって部課制が発足しました。事務部長には九州大学から前田正三氏、整理課長には大阪大学から尾崎一雄氏、閲覧課長には本学の山田 勉氏が就任いたしました。今後、本図書館の業務電算化を推進する陣容

が整ったという意味から本学の学術情報システムの進展が期待されます。他にも3人の昇任があり、図書館の新陣容が整いました。新旧職員の歓送迎会の席上で、瀬名波榮喜館長が「エポックメイキングの年である。」と言われましたが、館員にとっては、正に新時代を画する年であると言えます。図書館業務電算化、東京大学文献情報センターとの接続そして情報検索サービスの拡充、更に図書館増築の問題等、道は平ではありませんが、館長の指導のもと、新部課長を迎えて、図書館発展のために、館員一同心をひきしめてお互いに協力し、努力しなければならない年であります。

次に、昭和60年4月1日付で昇任発令された人々の氏名を掲げます。

事務部長	前田正三	(前九州大学附属図書館学術情報課長)
整理課長	尾崎一雄	(前大阪大学附属図書館整理課課長補佐)
閲覧課長	山田勉	(前当館閲覧係長)
受入係長	豊平朝美	(前当館受入係)
閲覧係長	松島寛正	(前当館整理係)
総務係総務主任	上原義光	(前農学部附属農場業務係)

〔第161回図書館運営委員会〕

日時：昭和60年2月19日(火) 13:30～

場所：図書館会議室

- 議題 1. 琉球大学附属図書館運営委員会規程の一部を改正する規程(案)について
2. 琉球大学事務分掌規程の一部を改正する規程(案)について

報告事項

1. ハワイ沖縄県人会よりの寄贈図書について
2. アジア大平洋資料センター設置構想について
3. EC資料センター設置について

〔第162回図書館運営委員会〕

日時：昭和60年4月16日(火) 13:30～

場所：図書館会議室

- 議題 1. 本学附属図書館を通称「志喜屋記念図書館」と呼称することについて
2. 大型コレクションの要求について
3. 昭和60年度前期運営委員会の日程について

報告事項

1. 将来計画(昭和61年度～67年度)について

2. EC 関係資料について

3. 図書館の標札, 館内サービス案内板(欧文)等の新設について

〔出張〕

- 昭和60年3月6日(水) 閲覧係 松原 敏夫
学術情報センター, システム利用状況について, 東京, 8日まで。
- 昭和60年3月6日(水) 受入係 赤嶺 久夫, 雑誌係 村吉 政明
ILIS システム導入の実情について, 京都, 金沢, 8日まで。
- 昭和60年3月11日(月) 閲覧係長 山田 勉
コンピューターによる閲覧業務について, 大阪, 福岡, 13日まで。
- 昭和60年3月13日(水) 分館閲覧係長 野原 敏弘
JOIS入門コース研修, 福岡, 15日まで。
- 昭和60年3月18日(月) 総務係長 照谷 浩一, 整理係 松島 寛正
電算化に伴う事務研修, 佐賀, 長崎, 20日まで。
- 昭和60年3月18日(月) 受入係長 崎浜 文枝
受入業務電算化について調査, 弘前, 東京, 大阪, 23日まで。
- 昭和60年3月22日(金) 受入係 豊平 朝美
受入業務事務研修, 鹿児島, 23日まで。
- 昭和60年3月25日(月) 事務長 平良 恵仁
事務打合せ, 札幌, 東京, 福岡, 29日まで。
- 昭和60年3月27日(水) 整理係長 新城 安善
ジャパンマークの利用状況について, 東京, 28日まで。

第15回九州地区国立大学図書館協議会

協議題

1. 国立大学図書館間相互利用実施要項と相互貸借の諸問題について
2. 九州地区国立大学図書館間における相互貸借について
3. 開かれた高等教育機関における図書館の今後の対応について
4. 学術情報システムに対応する大学図書館職員の研修について
5. 学生用図書費の充実について

6. 外国雑誌契約価格について
7. 昭和59年度九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議について
8. 第32回国立大学図書館協議会総会への提出議題について
9. 次期（昭和60年度）国立大学図書館協議会等の役員館の選出及び第36回九州地区
大学図書館協議会の役員館の選出について
10. 第16回（昭和61年度）九州地区国立大学図書館協議会の当番館について

第36回九州地区大学図書館協議会総会

協 議 題

1. VDT 導入に伴う職員の健康管理について
2. 情報の機械検索について ～現状と将来～

〔来館者〕

- 昭和60年2月1日（金） 駐日米国大使館図書部長 ジェシー，ラインバーグ女史
外2名
- 昭和60年2月21日（木） 国立国会図書館連絡部図書協力課 瀬川 弘悦 主査
- 昭和60年4月1日（月） 駐日 EC 委員会代表部 ジョルジュ・ドゥプレル 資料室
長， 市川 啓子 情報専門官

〔学術教育映画会〕 第4回

- 昭和60年2月8日（金） 「日本歴史の流れ」，「日本列島の生いたちをさぐる」

〔展 示 会〕

シェークスピア展

昭和60年4月22日（月）～ 4月27日（土）まで

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第18巻 第2号〔通巻第67号〕

昭和60年6月1日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話（09889）5-2221 内線（2143） 編集 閲覧課 参考調査係